

はじめに

このテキストは、中学校で学習する内容をもとに、高校入試に十分対応できるだけの国語の力を養成することをねらいとして、つくられています。

文章を読むことは、まず、言葉の意味を知り、言葉の適切な用法を知ることから始まります。次に、一つ一つの文の意味を正しく理解し、文章全体の内容把握へと進むことになるわけです。

そこでこのテキストでは、初めに、漢字や言葉の知識を〈国語の知識編〉で学習し、基礎力を確固たるものとします。

また、限られた時間の中で読解問題の正答を得るためには、設問を解くポイントを知っておくことが重要になります。どこがポイントになるかを学習するのが〈基本演習編〉です。

ポイントを理解したら、あとはいろいろな文章に接して実践的な読解演習を積み重ねることが大切です。〈読解演習編〉には、入試問題レベルのいろいろな内容の文章による読解問題が収められています。また、設問の中には、記述式の解答を必要とする、表現力を試すものも多数とりあげました。

さらに、〈国語の応用編〉では、文章を書くために必要な知識やポイントを学びます。実際に文章を書く練習を重ね、表現力を高めます。

このテキストを最大限に活用することで、国語の力をのばし、一人一人が所期の目的を達成されることを期待しています。

●このテキストのしくみと使い方



●国語の知識編

1	漢字・熟語の知識	4
2	語句の知識	8
3	文の組み立て	14
4	言葉の種類、体言	18
5	用言	22
6	副詞・接続詞・連体詞・感動詞	26
7	助動詞	30
8	助詞	34
9	言葉の識別	38
10	知識のまとめ	42

●基本演習編

1	文章読解の基本 ——指示語・接続語——	46
2	小説の読み方(1) ——場面・情景をとらえる——	50
3	小説の読み方(2) ——人物の心情——	54



4	小説の読み方(3) ——主題をとらえる——	58
5	随筆の読み方(1) ——筆者特有の考え方・感じ方——	62
6	随筆の読み方(2) ——心情・主題——	66
7	説明文の読み方(1) ——話題——	70
8	説明文の読み方(2) ——段落——	74
9	論説文の読み方(1) ——文脈のとらえ方——	78
10	論説文の読み方(2) ——文章構成——	82
11	論説文の読み方(3) ——要旨のとらえ方——	86
12	詩の読み方(1) ——情景・心情——	90
13	詩の読み方(2) ——表現技法・主題——	94

14	短歌・俳句の読み方 ——短歌・俳句の特色——	98
15	古典読解の基礎 ——古文・漢文の基本知識——	102
●読解演習編		
1	小説の読解(1)	106
2	小説の読解(2)	110
3	小説の読解(3)	114
4	随筆の読解(1)	118
5	随筆の読解(2)	122
6	随筆の読解(3)	126
7	説明文の読解(1)	130
8	説明文の読解(2)	134
9	説明文の読解(3)	138
10	論説文の読解(1)	142
11	論説文の読解(2)	146
12	論説文の読解(3)	150
13	論説文の読解(4)	154
14	詩・短歌・俳句の読解(1)	158
15	詩・短歌・俳句の読解(2)	162
16	古文の読解(1)	166
17	古文の読解(2)	170
18	古文の読解(3)	174



19	古文の読解(4)	178
●国語の応用編		
1	読書感想文を書く	182
2	文学的文書を読んで自分の意見を書く	188
3	説明的文書を読んで自分の意見を書く	194
4	立場を決めて書く	200
5	知識と経験を使って書く	206
6	資料を読みとり論じる	212
7	結果を読みとり論じる	218
●作文講座		
1	作文講座①	224
2	作文講座②	226
3	作文講座③	228
4	作文講座④	230
5	作文講座⑤	232
●総合演習編		
1	総合演習(1)	234
2	総合演習(2)	240
3	総合演習(3)	246

1

漢字・熟語の知識

◆ ポイント1 漢字の成り立ち・部首・画数 ◆

【例題1】 次の(1)～(4)の漢字と成り立ちが同じものを、それぞれあとから選びなさい。

- (1) 魚() (2) 信() (3) 本() (4) 泳()

ア 末 イ 月 ウ 花 エ 男

【解法】 漢字には、ものの形をかたどった象形文字(↓(1))、複数の文字を組み合わせた会意文字(↓(2))、事柄を記号を用いて表した指事文字(↓(3))、意味を表す部分と音を表す部分から成る形声文字(↓(4))がある。

【例題2】 次の漢字の部首名と総画数を、それぞれ書きなさい。

- (1) 適() (画)
 (2) 級() (画)
 (3) 郊() (画)
 (4) 筒() (画)

【解法】 部首には、へん()、つくり()、かんむり()がある。
 ↓(4)、あし()、かまえ()、たれ()、によう()

漢字の画数を数えるときは、次の点に注意する。

- (a) 誤りやすい部首の画数： 廴(3画) 凵(3画) 弓(3画) 廴(3画) 糸(6画)
 (b) 誤りやすい画： 乚・フ・ヲ・シなどはすべて一画に数える。

1 次は、漢字の成り立ちが同じものを組み合わせたものである。□にあてはまる漢字をあとから一つずつ選びなさい。

- (1) [抵] 眺 □ 枝 悟 ()
 (2) [林] □ 明 炎 鳴 ()
 (3) [山] 牛 木 日 □ ()
 (4) [三] 上 中 □ 下 ()

ア 岩 イ 二 ウ 鳥 エ 銅

2 次の漢字の部首名をそれぞれ書きなさい。

- (1) 利() (画)
 (2) 廉() (画)
 (3) 街() (画)
 (4) 究() (画)
 (5) 狩() (画)
 (6) 懇() (画)
 (7) 越() (画)
 (8) 疲() (画)
 (9) 凍() (画)
 (10) 腕() (画)
 (11) 祈() (画)
 (12) 揺() (画)

3 次の各組の漢字の中から、他とは総画数が異なるものを、一つずつ選びなさい。

- (1) [ア] 乗 イ 邪 ウ 厚 エ 変 オ 海
 (2) [ア] 勉 イ 恥 ウ 消 エ 被 オ 偽
 (3) [ア] 偉 イ 報 ウ 傾 エ 掌 オ 焼
 (4) [ア] 償 イ 濯 ウ 瞬 エ 鮮 オ 縮

◆ポイント2 熟語の組み立て

【例題3】 次の(1)～(10)の熟語と組み立てが同じものを、それぞれあとから選びなさい。

- | | | |
|---------|--------|--------|
| (1) 特急 | (2) 非凡 | (3) 幸福 |
| (4) 町営 | (5) 隣人 | (6) 堂々 |
| (7) 美化 | (8) 有無 | (9) 開店 |
| (10) 御礼 | | |

- | | | | |
|------|------|------|------|
| ア 歎喜 | イ 刻々 | ウ 投球 | エ 近況 |
| オ 動静 | カ 国連 | キ 真下 | ク 地震 |
| ケ 不利 | コ 公的 | | |

【解法】 二字熟語には、類義の漢字を重ねたもの(↓(3))、対義の漢字の組み合わせ(↓(8))、上の字が下の字を修飾するもの(↓(5))、動詞の下に目的・対象などを表す字がつくもの(↓(9))、上の字と下の字が主語・述語の関係にあるもの(↓(4))、長い語を省略したもの(↓(1))、上に打ち消しの語がつくもの(↓(2))、などがある。

【例題4】 次の□にあてはまる漢字をあとから選び、三字または四字の熟語を完成させなさい。

- | | |
|----------|----------|
| (1) □食住 | (2) □判断 |
| (3) 報道□ | (4) 花鳥□月 |
| (5) 一□参加 | (6) 一進□ |

〔未陣 風 雨 朝 好 退 致 般 衣〕

【解法】 (1)・(4)は、個々の漢字が対等に結びついたもの、(2)は上の一字が下の二字を修飾しているもの、(3)は上の二字が下の一字を修飾しているもの、(5)は上の二字が下の二字を修飾しているもの、(6)は上の二字と下の二字が対になっているものである。

4 次の(1)～(8)の熟語と組み立てが同じものを、あとから二つずつ選びなさい。

- | | |
|--------|---------|
| (1) 激痛 | (2) 是非 |
| (3) 繁茂 | (4) 大失態 |
| (5) 克己 | (6) 友情論 |
| (7) 不朽 | (8) 松竹梅 |

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| ア 食糧難 | イ 珍現象 | ウ 上昇 | エ 悪臭 |
| オ 惜別 | カ 知情意 | キ 越境 | ク 居住地 |
| ケ 非売 | コ 今昔 | サ 寢具 | シ 未納 |
| ス 心技体 | セ 粗雑 | ソ 猛攻撃 | タ 優劣 |

5 次の各組が、同じ組み立ての熟語になるように、□にあてはまる漢字をそれぞれあとから選び、書きなさい。

- | | |
|-------------|-------------|
| (1)〔善悪 去□〕↓ | (2)〔献花 □人〕↓ |
| (3)〔日没 人□〕↓ | (4)〔排出 □天〕↓ |
| (5)〔詩的 感□〕↓ | (6)〔悲劇 微□〕↓ |
- 〔小 工 年 変 造 来 巨 雄 情 力 性 求〕

6 次の()に適当な漢字を書き入れ、四字熟語を完成させなさい。

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| (1) 喜()哀楽 | (2) 一長二() | (3) 我()引水 |
| (4) 朝令()改 | (5) 首()一貫 | (6) 有名()実 |
| (7) 半信半() | (8) 危急()亡 | (9) 起()転結 |
| (10) 老()男女 | (11) 十人十() | (12) 無我()中 |
| (13) 意味()長 | (14) 内憂()患 | (15) 不()实行 |
| (16) 孤軍()鬪 | (17) 自()自賛 | (18) 荣枯()衰 |
| (19) 一日()秋 | (20) 異()同音 | (21) 一挙()得 |

ポイント3 同音・同訓異字／同音異義語／熟語の読み

【例題5】 次の各文には、一つずつ漢字の誤りが含まれている。それらを一語で抜き出し、正しく書き直しなさい。

- (1) 兄の成績を大学に紹介する。 () ↓ ()
- (2) 見事な機転で大成功を治める。 () ↓ ()
- (3) 君の明朗な性格が好きだ。 () ↓ ()

【解法】 書き誤りやすい漢字に、同じ音をもつ同音異字(↓(3))、同じ訓をもつ同訓異字(↓(2))、同じ音をもつが意味の異なる同音異義語(↓(1))がある。

【例題6】 次の——線の熟語の読みを、それぞれ書きなさい。

- (1) アルミ製の額縁だから、とても軽い。 ()
- (2) 東京駅までの切符を買う。 ()
- (3) 朝霧の流れる高原を散歩する。 ()
- (4) 固い握手をかかず。 ()
- (5) 妹に土産を買う。 ()

【解法】 二字熟語には、音・音読みのもの(↓(4))、訓・訓読みのもの(↓(3))、音・訓読み(重箱読み)のもの(↓(1))、訓・音読み(湯桶読み)のもの(↓(2))、特別な読み方をする熟字訓(↓(5))がある。

7 次の各組の——線のカタカナを、漢字に直して書きなさい。

- (1) ① 法をオカす。 () す
- ② 危険をオカす。 () す
- (2) ① スペースをサく。 () く
- ② 桜の花がサく。 () く
- (3) ① 呼吸がアラくなる。 () く
- ② 計算がアラくなる。 () く

- (4) ① 車の通行をボウ害する。 ()
- ② 両者の攻ボウが激しくなる。 ()

- (5) ① 製品を船でユ送する。 ()
- ② ヌ快な気分になる。 ()

- (6) ① 勢力がシンチョウする。 ()
- ② シンチョウな行動が要求される。 ()

- (7) ① 計画が遅れるのはヒツシだ。 ()
- ② 弟は宿題を仕上げるのにヒツシだ。 ()

- (8) ① 体のヘイコウ感覚が狂う。 ()
- ② 二つの仕事をヘイコウして進める。 ()

8 次の各組の熟語のうち、読み方のうえで他とは異なるものはどれか。それぞれ一つずつ選びなさい。

- (1) (ア) 雨雲 (イ) 花園 (ウ) 盆地 (エ) 梓組
- (2) (ア) 歩幅 (イ) 場面 (ウ) 内幕 (エ) 店番
- (3) (ア) 幻滅 (イ) 稲穂 (ウ) 跳躍 (エ) 分裂
- (4) (ア) 素肌 (イ) 番組 (ウ) 凶柄 (エ) 小作

9 次の熟語の読みを、それぞれ書きなさい。

- (1) 七夕 ()
- (2) 若人 ()
- (3) 行方 ()
- (4) 心地 ()
- (5) 笑顔 ()
- (6) 田舎 ()
- (7) 為替 ()
- (8) 木綿 ()
- (9) 五月雨 ()
- (10) 名残 ()
- (11) 風邪 ()
- (12) 吹雪 ()
- (13) 雪崩 ()
- (14) 波止場 ()

① 「難」という漢字について、次の問いに答えなさい。

(1) 部首名と総画数を書きなさい。() () 画

(2) 「難」とあとの漢字を結び付けて、次の熟語と組み立てが同じになる二字熟語を、() の数だけ作りなさい。

① 存在 () () ② 欠点 () ()

③ 官民 () () ④ 納税 () ()

〔局 遭 易 災 問 避 苦〕

(3) 次の中から、重箱読みをするものを、一つ選びなさい。

ア 難解 イ 難癖 ウ 受難 エ 困難

(4) 「難」を用いた次の四字熟語の□にあてはまる漢字を、それぞれ書きなさい。

① □理難題 () ② 難□突破 ()

③ 難行□行 () ④ 前□多難 ()

⑤ 難□不落 () ()

(5) 次の——線の漢字を、正しく書き改めなさい。

① 相手国との交渉は難行をきわめた。()

② 難船北馬の人生が僕の夢だ。()

③ 勾配がきつく、難義な道だ。()

② 次の各組の熟語のうち、他とは組み立てが異なるものはどれか。それぞれ一つずつ選びなさい。

(1) (ア) 公私 イ 購買 ウ 愛憎

(2) (ア) 価値 イ 剰余 ウ 過失

(3) (ア) 常識 イ 薄幸 ウ 代替

(ア) 濃霧 (エ) 真相

(4) (ア) 物産展 イ 改革案 ウ 執筆者 エ 緩斜面

③ 次の——線の漢字が正しければ○、まちがっていれば正しく直して書きなさい。

(1) 駅前で父と偶然に会う。()

(2) 参政権を獲得する。()

(3) 緊張して入学試験に望む。()

(4) 音楽観賞が姉の唯一の趣味です。()

(5) 一票の重みの均等化を図る。()

(6) 機械を点検する。()

(7) どうも彼のやり方には異和感がある。()

(8) 発表会の出来を、審査員が好評する。()

④ 次の熟語には二通りの読み方がある。それぞれ書きなさい。

(1) 今日 () (2) 仮名 ()

(3) 梅雨 () (4) 紅葉 ()

(5) 白髪 () (6) 上手 ()

(7) 雲 () (霧) () (8) 臨 () (応) ()

(5) 針 () (棒) () (2) 前 () (聞) ()

(3) () (刀) () (4) 暗 () (模) ()

(5) 馬 () (東) () (6) 絶 () (命) ()

⑤ 次の()に適切な漢字を書き入れ、四字熟語を完成させなさい。

(7) 雲 () (霧) () (8) 臨 () (応) ()

(5) 馬 () (東) () (6) 絶 () (命) ()

(3) () (刀) () (4) 暗 () (模) ()

(7) 雲 () (霧) () (8) 臨 () (応) ()

15

古典読解の基礎

古文・漢文の基礎知識

例文問題

A

ある時狐餅じきを求めかねて、ここかしこさまよふとこ
ろに、烏ししむらをくはへて、木の上①にをれり。狐心②に思
ふやう、われこのししむらを取らまほしく覚えて、烏のぬ
ける木の本③に立ちより、「いかに御辺④、御身は万の鳥の中
に、すぐれてうつくしく見えさせおはします。然りといへ
ども、少し事足りたまはぬ事とは、御声の鼻声⑤にこそは
べれ。但し、この程世上に申ししは、御声もことの外よく
わたらせたまふなど申してこそ候へ。あはれ、一ふし聞か
まほしうこそはべれ。」と申しければ、烏この義⑥をげにと心
得て、さらば、声を出さんとて、口をはだけけるひまに、
つひにししむらを落としぬ。狐これ取りて逃げ去りぬ。

*ししむら||肉の塊。 *いかに御辺||やあ、あなたさま

*こそはべれ||……でいらつしやることです。

*この程世上に申ししは||このごろ、世間で言うことには。

*義||言うこと。

B

少年易老、学難成。

C

覆水不返、盆盈。

☐ 上の文章を読んで、次の問いに答えなさい。

問一 線①「くはへて」、②「をれり」、③「思ふやう」、④「ぬける」
を、それぞれ現代仮名づかいに直して書きなさい。

(c) (a) [] (b) []
[] (d) [] []

問二 線①「申しければ」の主語にあたるものを、文章中から書き抜き
なさい。

[]

考え方 「立ちより」↓「覚えて」↓「思ふやう」と、共通の主語をもつ述
語をさかのぼって、主語にあたるものをとらえる。

問三 線②「狐これ取りて逃げ去りぬ」を、口語に訳して書きなさい。

[]

考え方 適切な助詞を補うこと、「ぬ」が打ち消しではなく完了の助動詞で
あること、の二点に注意する。

問四 この文章から得られる教訓として適切なものを、次から選びなさい。

ア 人の物を盗む者は、かへつて盗まれるものなり。

D	人無 ^二 遠 ^一 慮 ^一 、必 ^ス 有 ^二 近 ^一 憂 ^一 。
E	不 ^レ 入 ^二 虎 ^一 穴 ^一 、不 ^レ 得 ^二 虎 ^一 子 ^一 。

ポイント 古文・漢文の基礎知識

(1) 古文の特色

- ① 現代仮名づかいと歴史的仮名づかいの違い
 - a わ・い・う・え・お↓は・ひ・ふ・へ・ほ
 - b じ・ず↓ぢ・づ
 - c い・え・お↓ゐ・ゑ・を
 - d こう・そう・とう・よう↓かう・さう・たう・やう
 - ② 主語や助詞の省略……古文では主語や助詞が省略されていることが多いので、文脈から判断してそれらを補って訳す。
 - ③ 助動詞……現代語にはない過去を表す「けり」や完了の助動詞「ぬ・たり」などに注意する。
 - ④ 重要古語……「あはれ」や「をかし」、「いと」、「あやし」など、現代語とは用法の異なる言葉や、「……ので」と訳す「已^い然形十ば」の形など、古文特有の表現に注意する。
- (2) 漢文の読み方
- ① 返り点
 - a レ点……「A B」なら、B↓Aというように、一字返って読む。
 - b 一二点……二字以上へだてて一から二へ返って読む。
 - ② 送りがない……送りがなや助詞は、原文の右下にカタカナでふられている。

考え方 **イ** 貪欲なる人は、わが持つところの財をも失ふことありけり。
ウ 人のほめらるる時は、つつしんで謙遜すべし。
エ 今日^{けふ}は人の身の上、明日は我が身と知るべし。
 烏が肉を狐に取られてしまったのはなぜかを考える。

問五 B・C・Dの漢文の書き下し文を、それぞれ書きなさい。

- D C B
- _____
- _____
- _____

考え方 返り点に注意し、読む順序をまず整理してみる。

問六 Eの漢文と反対の意味を表すことわざを、次から選びなさい。

- ア** たつ鳥あとを濁さず **イ** 転ばぬ先のつえ
- ウ** 君子危うきに近寄らず **エ** 火中の栗を拾う

ドリル ⑮ ……漢字の読み

- 次の――線の漢字をひらがなに直して書きなさい。
- (1) 柔和な表情で語る。 ()
 - (2) 両者の勢力が均衡する。 ()
 - (3) 誇張して表現する。 ()
 - (4) こんこんと諭す。 ()
 - (5) 大きな損害を被る。 ()
 - (6) 慌ただしい毎日を送る。 ()

練習問題

◆1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔原文〕

桜の花ざかりに、歌よむ友だち、これかれかい連ねて、そこかしこ
と、見ありきける、かへるさに、見し花どものこと、語りつつ来るに、
ひとりがいふやう、「まろは、歌よまむと、思ひめぐらしけるほどに、
けふの花は、いかにありけむ、こまやかにも見ずなりぬ。」といへる⁵
は、をこがましきやうなれど、まことはたれもさもあることと、をか
しくぞ聞きし。

〔現代語訳〕

桜の満開の時に、歌よみの仲間が、この人あの人と連れだって、あ
ちらこちらと、見て歩いた、その帰途に、見てきた桜の花などのこと10
を、話しながら来ると、一人が言うには、「わたしは、歌をよもうと思
って、あれこれ考えているうちに、本日の花は、どんなであったらう
か、⁵見ないでしまった。」と言ったのは、⁶実際にはだれ
にも経験のあることと、おもしろく聞いた。

（原文は本居宣長「玉勝間」より）

問一 —— 線①「いふやう」、②「けふ」を現代仮名づかいに直して書き
なさい。

① _____ ② _____

問二 —— 線③「こまやかに」の現代語訳として⁵にあてはまる
言葉を、次から選びなさい。

ア 詳しくは
ウ 親切には
イ あわただしく
エ のんびりと

問三 —— 線④「をこがましきやうなれど」の現代語訳として⁶に

あてはまる言葉を、次から選びなさい。

ア 生意気なことのようであるけれども
イ 情趣深いことのようであるけれども
ウ ばからしいことのようであるけれども
エ ひかえめなことのようであるけれども

問四 「まろ」の話を聞いたときの筆者の気持ちとして適切なものを、

次から選びなさい。

ア よい歌ができなかったことを不思議に思っている。
イ 初心者にありがちな未熟さを残念だと感じている。
ウ 桜も見ないで歌をよもうとした態度を批判している。
エ 歌をよむときにはよくあることだと共感している。

◆2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① 孝道入道、仁和寺の家にてある人と双六をうちけるを、隣にある越
前房といふ僧きたりて、見所すとて、さまさまのさかしらをしけるを、
にくしくしと思ひけれども、物もいはでうちるたりけるに、この僧
さかしらしさして立ちぬ。かへりぬと思ひて、亭主、「この越前房はよ
き程の者かな」といひたりけるに、かの僧いまだかへらで、亭主のう
しろに立ちたりけり。かたき、亭主のひぎをつきたりければ、うしろ
へ見むきて見れば、この僧いまだありけり。この時とりもあへず、「越
前房はたかくもなし。ひくきもなし。よき程の者かな」といひなほし
たりける、心はやさ、いとをかしかりけり。（古今著聞集より）

*見所す||勝ち負けを判定する。 *さかしら||口出し。

*よき程の者かな||いいかげんな男だ。 *かたき||相手。

*よき程の者かな||ちよūdよいくらいの男だ。

問一 — 線①「孝道入道」と同じ人物は、次のうちのどれか。選びなさい。

- ア ある人 イ この僧 ウ 亭主 エ かたき

問二 — 線②「亭主のひぎをつきたりければ」とあるが、「かたき」はなぜひぎをついたのか。次から選びなさい。

- ア 亭主に、越前房がまだいることを知らせるため。
- イ 亭主に、越前房の良いところを気づかせるため。
- ウ 亭主に、越前房が帰ってしまったことを教えるため。
- エ 亭主に、越前房の悪口を言ったことを謝らせるため。

問三 — 線③「いひなほし」を、現代仮名づかいに直して書きななさい。

問四 この話のおかしさは、孝道入道のどういうところにあるか。次から選びなさい。

- ア 失敗をしたと思ったが、表面はなにくわぬ顔をして双六をしたところ。
- イ 失敗に気づかないで、最後まで夢中になって双六をうち続けたところ。
- ウ 失敗をとりつくりおうとし、逆にとんちんかんなことを言ったところ。
- エ 失敗に気づき、とっさに意味をすり変えてその場をきりぬけたところ。

◆3 次の漢文を読んで、あとの問いに答えなさい。

宋人^①有^②耕^③田^④者^⑤。田^⑥中^⑦有^⑧株^⑨。兔^⑩走^⑪触^⑫株^⑬、折^⑭頸^⑮而^⑯死^⑰。因^⑱捨^⑲其^⑳未^㉑而^㉒守^㉓株^㉔、冀^㉕復^㉖得^㉗兔^㉘。兔^㉙不^㉚可^㉛復^㉜得^㉝、而^㉞身^㉟為^㊱宋^㊲国^㊳笑^㊴。

(韓非子^㊵より)

問一 — 線①「田中有株」、③「捨其未」を、書き下し文に直し、すべてひらがなで書きななさい。

① _____

③ _____

問二 — 線②「折頸而死」のうち、読まなくてもよい字はどれか。一つ選んで書きななさい。

問三 — 線④について、どういうことをこいねがったのか。簡単に書きななさい。

問四 — 線⑤について、なぜ宋国の笑いとなったのか。その理由として適切なものを、次から選びなさい。

- ア 動かない切り株のようなものにぶつかって死んだから。
- イ 田を耕すことを忘れ、兔と遊ぶことに夢中になったから。
- ウ 過去の幸運にしがみついて、浅はかなことをしたから。
- エ 切り株みたいな価値のないものを大切にしていたから。

練習問題

❶ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

去年の夏生まれたる娘、智くあれとて、名をさとと呼ぶ。今年誕生日祝ふころ、人の持てる風車を、しきりにほしがりてむづかれば、取らせけるを、やがてむしやむしやしやぶつて捨て、つゆほどの執念なく、ただちにはかの物に心うつりて、障子のうす紙をめりめりむしるに、「よくした、よくした。」とほむれば、まこととおもひ、ひたむしりにむしりぬ。心のうち一点の塵もなく、名月のきらきらしく清く見ゆれば、心のしわをのばしぬ。

(小林一茶「おらが春」より)

問一 線①「名をさとと呼ぶ」とあるが、「さと」という名をつけた理由として適切なものを、次から選びなさい。

- ア 勇気のある人になってほしいから
 - イ 優しい人になってほしいから
 - ウ かしこい人になってほしいから
 - エ 体のつよい人になってほしいから
- 問二 線②「つゆほどの執念なく」の口語訳として適切なものを、次から選びなさい。
- ア 全くものを大切に作る気持ちがなく
 - イ 全く嘆き悲しむ気持ちがなく

ウ 少しもうれしく思う気持ちがなく

エ 少しもものにこだわる気持ちがなく

問三 線③「まこととおもひ」とあるが、だれが思ったのか。文章中から一語で書き抜きなさい。

問四 線④「名月のきらきらしく清く見ゆれば」の説明として適切なものを、次から選びなさい。

ア 名月が娘同様にかけがえないものに思えるので

イ 娘が名月のように明るく汚れなく思われるので

ウ 娘が名月の輝きを心から慕っていると思えるので

エ 名月が娘を照らしいつくしむように思えるので

問五 線⑤「心のしわをのばしぬ」とは、心がどうなったことを意味しているか。次から選びなさい。

ア 心がひきしまった

ウ 心が晴れた

イ 心がときめいた

エ 心がとがめた

❷ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(AとBは合わせて一つの話である。)

A 伯爺、過ち有り。其の母之を答うつに、泣く。其の母曰はく、「他日子を答うつに、未だ嘗て泣くを見ず。今泣くは何ぞや。」と。

B 対曰「他日、爺得罪、答嘗痛。今母之力、不能使痛。痛是、以泣。」

*伯爺||爺、人名。 *他日||以前。 *子||おまえ。

*不能使痛||痛みを感じさせることができない。 *是以||だから。

問一 文章中に疑問を表す用法がある。それを含む一文を、書き抜きなさい。

問二 ———線部「得^レ罪」の読み方(書き下し文)を、すべてひらがなで書きなさい。

問三 伯兪が泣いたのはなぜか。その理由として適切なものを、次から選びなさい。

- ア 悲しかったから イ 痛かったから
ウ くやしかったから エ うれしかったから

◆3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

兼山は土佐の人なり。かつて江戸に來たり、帰期に及ぶや、書を郷人に致していはく、土佐は物として有らざるなし。江戸よりもたらし帰らんは、ただ蛤蜊一艘あるのみ。海路さいはひにつつが無くんば、^③ 帰日もつてこれをおくらんと。郷人もへらく異味をなめんと。日を計りて帰るを待てり。すでに至ればすなはち命じてその漕するところを城下の海中に投ぜしめて、一個をあまます。郷人あやしみて問ふ。兼山笑つていはく、これ独り諸卿におくるのみならず、卿の子孫をしてまたこれに飽かしむるなりと。これより後、はたして多く蛤蜊を生じ、つひに名産となれり。^④ 郷人はじめてその遠慮に服せり。

*兼山||野中兼山。江戸時代の儒学者。

(原念齋「先哲叢談」より)

*蛤蜊一艘||船||そう分のはまぐり。
*諸卿||みなさん。

問一 ———線①「物として有らざるなし」の意味として適切なものを、次から選びなさい。

- ア どんな物でもある イ 珍しい物がある
ウ これといった物はない エ 物はなに一つない

問二 ———線②「さいはひに」を現代仮名づかに直して書きなさい。

問三 ———線③「日を計りて」から、「郷人」のどのような気持ちが読み取れるか。次から選びなさい。

- ア 兼山の海路の無事を祈る気持ち。
イ 兼山の真意をはかりかねる気持ち。
ウ 兼山の帰りを待ちわびる気持ち。
エ 兼山に約束を守ってほしい気持ち。

問四 ———線④「郷人はじめてその遠慮に服せり」の解釈として適切なものを、次から選びなさい。

- ア 郷里の人は、自分たちの考えが間違っていることに気がついてはじめて、兼山の学識と思慮に心服したのである。
イ 郷里の人は、自分たちの子孫が豊かに暮らせるようになってはじめて、兼山の長い間の苦勞に感謝したのである。
ウ 郷里の人は、蛤蜊が当地の名産となるようになってはじめて、兼山の謙虚でひかえめな人柄に敬服したのである。
エ 郷里の人は、蛤蜊がたくさん採れ、名産となつてはじめて、兼山の遠い将来まで見通す考えに感服したのである。

発展問題

◆ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある河のほとりに、蟻^{あき}あそぶ事ありけり。にはかに水かさまさりきて、かの蟻をさそひ流る。浮きぬ沈みぬする所に、鳩^{とび}こずるよりこれを見て、「あはれなるありさまかな。」と、こずるをちと食ひ切つて河の中におとしければ、蟻これに乗つて渚^{しづ}にさがりぬ。かかりける所に、ある人、竿^{さき}のさきにとりもちを付けて、かの鳩をささんとす。心に思ふやう、「ただ今の恩を送らうものを。」と思ひ、かの人の足にしつかと食ひつきければ、おびえあがつて、竿をかしこに投げ捨てけり。そのもの色や知る。しかるに、鳩^{とび}これをさととりて、いづくともなく飛び去りぬ。

〔伊曾保物語〕より

*色や知る||いささつを知つたらうか、いや知るまい。

問一 — 線①「あそぶ事ありけり」を、口語に訳して十字以内で書きなさい。

Blank grid for question 1 answer.

問二 — 線②「浮きぬ沈みぬする」の口語訳として適切なものを、次から選びなさい。

- ア 浮かずに沈んでしまった
イ 浮いていたがすぐ沈んだ
ウ 浮いたり沈んだりする
エ 浮いたままで沈まない

問三 — 線③「こずる」を、現代仮名づかいに直して書きなさい。

Blank box for question 3 answer.

問四 — 線④「あはれなるありさまかな」とあるが、鳩は何を見てどのように思ったのか。二十字以内で書きなさい。

Blank grid for question 4 answer.

問五 — 線⑤「ささんとす」の主語を、文章中から書き抜きなさい。

Blank box for question 5 answer.

問六 — 線⑥「これ」は、何を指しているか。次から選びなさい。

- ア かの人
イ ある人
ウ 蟻
エ 鳩

問七 — 線⑦「これ」は、何を指しているか。次から選びなさい。

- ア 蟻が渚に上がったこと
イ 人が忍び寄ってきたこと

- ウ 蟻が助けてくれたこと
エ 人が竿を投げ捨てたこと

問八 この文章の続きは、話の内容に基づいた教訓でしめくられてい

る。そのしめくりの文として適切なものを、次から選びなさい。

ア 悪人に対してよき事を教ふといへど、かへつてその罪をなせり。

イ 人の恩を受けたらん者は、いかさまにもその報ひをせばやと思ふ心さしを持つべし。

ウ 人がものをいへと教ふればとて、思案もせず、あはてて物をいふべからず。

エ たとひ人我に仇をなすべき者とさとも、仇をもつてむかふべからず。

◆2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

* 肥後と天草あまぐさの島との間の海中に小さき島あり。いかなる事にや、この島にはむかしより鼠ねずみおびたたく住めるとぞ。もとより小さき島なれば人も住まず、ただ、鼠のみなりといふ。この故に、この海を通ふ船にては、三味線しやみせんをひく事を船頭かたくいましてゆるさず。もしこの辺あたにてこのいましめを用ひず三味線をひけば、かならず波風大いにおこりて、船あやふき事あり。三味線は猫の皮にてはりたる物なれば、鼠ねずみのいむゆるなりとぞ。近き頃ころの価あたいやすき三味線は、多くはいぬのこの皮にてはれとぞ。この島の鼠は昔よりの事のみしれるにや。

* 肥後II現在の熊本県。

(橘たちばなをけい南谿「西遊記」より)

問一 この文章には、「鼠島」という小題がついているが、この島に居住者がいない理由を示している部分を、文章中から七字で書き抜きなさい。

問二 線①「いかなる事にや」の意味として適切なものを、次から選びなさい。

- ア いつのときからか
- イ なにがおこったのか
- ウ どれくらいなのか
- エ どうしたことか

問三 線②「このいましめ」とあるが、「このいましめ」の指している内容を、口語で三十文字以内で書きなさい。ただし、「鼠島」で書き出し、文末は「……いけない。」とすること。

問四 線③「いむ」の意味として適切なものを、次から選びなさい。

- ア 悲しみ嘆く
- イ 嫌って避ける
- ウ 喜んで祝う
- エ 怒って苦しむ

問五 この文章を書いたときに、筆者はどのような感想を抱いたと考えられるか。次から選びなさい。

- ア この伝承は聞いたまま書いたが、内容の愚かしさにあきればかりだ。
- イ この伝承は事実としての昔の自然の姿を示しているが、信じがたい。
- ウ この伝承は内容的には合理性に乏しく現実離れしているが、興味深い。
- エ この伝承は迷信を信じ込むことのおそろしさを述べており、教育的だ。

ドリル29 慣用句

- 次の□にあてはまる体の一部を表す言葉を、漢字一字で書きなさい。
- (1) □に腹はかえられぬ () (2) □に衣着せぬ ()
 - (3) 借金で□が回らぬ () (4) □をこまぬく ()
 - (5) □にすえかねる () (6) □で風を切る ()
 - (7) 二枚□を使う () (8) □にも見せる ()

「携帯電話を持つこと」についてクラスで話し合いをすることになりました。まず、話し合いの前にクラスの児童とその保護者にそれぞれアンケートをとって、賛成と反対の人数を調べました。

〈アンケートの結果〉

携帯電話を持つことには「賛成」だ。	二十五人	児童
携帯電話を持つことには「反対」だ。	五人	保護者
	二十人	

◆問題1

1 賛成の児童の立場になって、賛成の理由を考えてみましょう。

2 反対の児童の立場になって、反対の理由を考えてみましょう。

3 保護者の反対意見が多いのはどうしてだと思いますか。考えたことを書きましょう。

▽ポイントアドバイス△

▼ 賛成・反対それぞれの立場で、具体例を挙げて説明してみましょう。

◆問題2

1 あなたは携帯電話を持っていますか。次から選びましょう。

ア スマートフォンを持っている。

イ 携^けい^だたい電話を持っている。

ウ 持っていない。

2 ア・イを選んだ人は、普^ふ段^{だん}どんなことに気を付けて使っているか書きましょう。

--	--	--

3 ウを選んだ人は、スマートフォンや携^けい^だたい電話を今後持つとしたら、どんなことに気を付けたらいいと思いますか。

--	--	--

5

作文講座 (5)

中学三年生の橋本さんのクラスでは、くらしの中で興味を持ったことを取り上げ、レポートにまとめることになりました。橋本さんは、街中でよく見かける案内図記号（ピクトグラム）について調べました。

【資料1】ピクトグラムの例

（注）記号の下の字は、ピクトグラムが意味するものについて説明したもので、ピクトグラムには含まれない。



【資料2】ピクトグラムが用いられている施設の例



空港



デパート

【橋本さんのレポートの一部】

私は、日頃から街中でよく見かける案内図記号が気になっていたのですが、今回その記号について調べることにしました。

案内図記号はピクトグラムと呼ばれており、たくさんの種類がある。主なピクトグラムの例を、資料1に示した。また、資料2は、ピクトグラムが実際に用いられている施設の例である。このように、ピクトグラムはさまざまな場所で用いられている。

資料1のピクトグラムからも分かるが、どのピクトグラムを見ても言えるのは、ピクトグラムにはデザイン上の共通した特徴があるということだ。



MJ

国語 3

解答と解説

**MJ
y
Juck**

1 漢字・語句の知識

(P4~7)

【例題1】 (1)イ (2)エ (3)ア (4)ウ

【例題2】 (1)しんにょう・14画 (2)いとへん・9画 (3)おおざと・9画

(4)たけかんむり・12画

1 (1)エ (2)ア (3)ウ (4)イ

【考え方】 (1)は形声文字、(2)は会意文字、(3)は象形文字、(4)は指事文字を集めたもの。

2 (1)りっとう (2)てへん (3)まだれ (4)にくづき (5)ぎようがまえ

(6)にすい (7)あなかんむり (8)やまいだれ (9)けものへん (10)そうに

よう (11)したごころ (12)しめすへん

3 (1)イ (2)オ (3)ウ (4)ウ

【例題3】 (1)カ (2)ケ (3)ア (4)ク (5)エ (6)イ (7)コ (8)オ (9)ウ

(10)キ

【例題4】 (1)衣 (2)好 (3)陣 (4)風 (5)般 (6)退

4 (1)エ・サ (2)コ・タ (3)ウ・セ (4)イ・ソ (5)オ・キ (6)ア・ク

(7)ケ・シ (8)カ・ス

5 (1)来 (2)求 (3)造 (4)巨 (5)性 (6)力

6 (1)怒 (2)短 (3)田 (4)暮 (5)尾 (6)無 (7)疑 (8)存 (9)承 (10)若

(11)色 (12)夢 (13)深 (14)外 (15)言 (16)奮 (17)画 (18)盛 (19)千 (20)口 (21)両

【例題5】 (1)紹介する↓照会する (2)治める↓収める (3)明朗な↓明朗な

【例題6】 (1)かくぶち (2)きつぷ (3)あさきり (4)あくしゆ (5)みやげ

7 (1)①犯(す) ②冒(す) (2)①割(く) ②咲(く) (3)①荒(く)

(4)①妨 ②防 (5)①輪 ②倫 (6)①伸張 ②慎重 (7)①

必至 ②必死 (8)①平衡 ②並行

8 (1)ウ (2)ア (3)イ (4)エ

9 (1)たなばた (2)わこうど (3)ゆくえ (4)ここち (5)えがお (6)いな

か (7)かわせ (8)もめん (9)さみだれ (10)なこり (11)かせ (12)ふぶき

(13)なだれ (14)はとば

●●●練習問題●●●

① (1)ふるとり・18画 (2)①災難・苦難 ②難局・難問 ③難易 ④遭

難・避難 (3)イ (4)①無 ②閑 ③苦 ④途 ⑤攻 (5)①航 ②南

③儀

② (1)イ (2)エ (3)ウ (4)エ

③ (1)○ (2)獲得 (3)臨 (4)鑑賞 (5)○ (6)点検 (7)違和 (8)講評

④ (1)きよう・こんにち (2)かな・かめい (3)つゆ・ばいう

(4)もみじ・こうよう (5)しらが・はくはつ (6)じょうず・うわて

⑤ (1)小・大 (2)代・未 (3)単・直 (4)中・素 (5)耳・風 (6)体・絶

(7)散・消 (8)機・変

2 語句の知識

(P8~13)

【例題1】 (1)短縮 (2)満潮 (3)不便 (4)義務

【例題2】 (1)ウ (2)エ (3)イ

1 (1)ア撃 イ守 (2)ア親 イ淡 (3)ア供 イ要 (4)ア純 イ雑

2 (類義語・対義語の順で) (1)ウ・コ (2)ア・オ (3)エ・キ

ドリル⑭

(1)賛否・半(ば) (2)経費・節約 (3)絶好・機会

練習問題1

問一イ 問二(1)エ (2)D (3)C

考え方

問一あとにある「いかにもカニらしい動作を見て」に着目する。動作を表すイ・エのうち、特にカニならではの動きが感じられるのは、「ささげて」である。問二(1)「遠田のかはづ」の鳴き声が聞こえてくるほど静まりかえっている様子を、「しんしんと」という一語で表現している。(2)体言(名詞)で終わっているものは、Dの「一列」のみ。(3)「わきたつような激しい命の営み」は「白藤の花にむらがる蜂の音」を意味し、「次の瞬間にはもう何事もなく時が静かに流れている」は「あゆみさかりてその音はなし」について解釈したものである。

練習問題2

問一ウ 問二Aエ Bア Cイ 問三枕詞

考え方

問一「驚きぬ」つまり「驚いた。」という過去完了形によって、第三句でいったん歌の流れを切っている。問二Aの歌は、第一・三句で、「今朝の寒さに驚いた」という実感を率直に表現している。Bの歌は、目の前のまっすぐ続く「一本の道」に、これまで生きてきた自分の道を重ね合わせており、その歩んできた道にかける情熱を「あかかと」という言葉が鮮烈に表現している。

練習問題3

問一季語：吹流し 季節：夏 問二B 問三きりもなや

問四エ

考え方

問四五・七・五の定型であるから、ア・イは不適切。切れ字を用いて初句を独立させていることに着目すれば、エが適切であることがわかる。この芥川龍之介の句は、木枯らしの吹く東京の街の情景は、東京生まれで東京育ちの自分にとって、自分の心と切っても切り離せない東京の冬の姿だ、という思いをよんだもの。

15

古典読解の基礎

(P 102~105)

例文問題

問一(a)くわえて (b)おれり (c)思うよう (d)いける 問二狐 問三(例)狐はこれを取って逃げ去った。 問四ウ 問五B少年老ひ易く学成り難し。 C覆水盆に返らず。 D人遠き慮無ければ、必ず近き憂ひ有り。 問六ウ

ドリル⑮

(1)にゅうわ (2)きんこう (3)こちよう (4)さと(す) (5)こむ(る) (6)あわ(ただし)

練習問題1

問一①いうよう ②きよう 問二ア 問三ウ 問四エ

考え方

問三「をこがまし」は、「ばからしい」の意。花見に行つて、歌のことに気をとられるあまり、花をよく見なかつたということ、本末転倒で「ばからしく見える」と言っているのである。問四「実際にだれにも経験のあることと、おもしろく聞いた」の部分から判断する。

練習問題2

問一ウ 問二ア 問三いいなおし 問四エ

考え方

(全訳) 孝道入道が、仁和寺の家である人と双六を打つたときに、隣にいた越前房という僧がやって来て、勝ち負けを判定するといつて、いろいろと口出しするのを、憎らしいと思つていたけれども、何も言わないで打つていたところ、この僧が口出しをしかけて立ち上がった。帰つたと思つて、亭主(である孝道)は、「この越前房はいいかげんな男だ」と言つたところ、例の僧はまだ帰らないで、孝道の後ろに立っていたのであつた。(双六の)相手が、孝道のひざをつい(て知らせ)たので、後ろを振り返つて見ると、この僧がまだいたのであつた。このとき、すぐに、「越前房は良くもないし、悪くもない。ちやうどよいくらいの男だ」と言い直したのは、機転が早く、と

てもおかしかった。

●練習問題3●

問一 ①でんちゅうにかぶあり。 ③そのすきをすてて

問二而 問三(例)兎がまた株に触れて首を折って死ぬこと。

問四ウ

考え方

〔全訳〕宋の人で、田を耕している者があった。(その者が耕す)田の中に木の切り株があった。(ある時)兎がこの株にぶつかって首を折って死んだ。そこで(この人は)すきを捨てて(耕すのをやめて)株を見守り、再び兎がとれることを待ち望んだ。兎を再びとることとはできなかったので、この人は宋国の笑い者となった。

●練習問題2 ● 問一 一字余り 問二 わかれ行く 問三 距離 問四 ウ

【考え方】 問三 「別れたのちに生まれてくるこもこもの人生の距離」を

思うことによっても、「さびしい関係」が生じてくるのである。 問四

「桜の花」という……失ってしまいます」の一文や、「この歌は……うたったからでもあるでしょう」の一文から考える。

●練習問題3 ● 問一 ア 問二 (1) 夕焼け (2) 喜び(歓喜、希望、期待など)

【考え方】 問二 (1) 次の行にある「夕暮」と結びつけて考える。

発展問題1 問一 第二連……まもなくね 第三連……ある日往来 問二 ①

存在の変化 ② 存在の無化 問三 人間らしい生き方が許されない 問

四 エ 問五 そして、こ

【考え方】 問一 時間の経過を的確にとらえる。 問二 「生死の生をほっ

ぱり出して」は、生↓死という変化を、「その死の影すら消え果てた」は、そこでねずみが死んだあかしとなるもの(死体など)もすっかりなくなってしまう、「ねずみの死」という事実が地球上から忘れ去られたことを意味している。

発展問題2 問一 ふるさとの訛 問二 ふるさと 問三 ふるさとをなつ

かしむ思い(望郷の念)。

【考え方】 問二 Bの歌は、都に降る雨を眺めていて、記憶の中にある、

「馬鈴薯のうす紫の花」に降っていた故郷の雨を思い出した、ということをつたつたもの。

16 古文の読解(1)

(P 166 ~ 169)

●練習問題1 ● 問一 ウ 問二 エ 問三 娘(さと) 問四 イ 問五 ウ

【考え方】 (全訳) 去年の夏に生まれた娘に、賢い人になってほしいと

思っ、名前を「さと」と呼ぶことにした。今年の誕生日を祝うころ、

人の持っている風車を見て、さとがしきりに風車をほしがり、だだをこねるので、風車を与えると、すぐにむしゃむしゃぶって捨て、風車にこだわる気持ちもなくなり、すぐに他の物に関心が移って、障子の薄紙をめりめりと引きむしるので、「よくやった、よくやった」と(私が)ほめると、(さととは)本当にはめられたのだと思って、ひたすら薄紙をむしりつづけた。(そのようにしているさと)心の中には少しの汚れもなく、名月の光のように明るく清らかに見えるので、(私は)心がはればれとなった。

●練習問題2 ● 問一 今泣くは何ぞや。 問二 つみをえしに 問三 ア

【考え方】 (全訳) 伯俞(という人が、少年のころ)過失をおかした。

(そこで)その母親が伯俞を(こらしめのために)笞で打ったところ、(伯俞は)泣いた。その母親は「以前、おまえを笞打って、一度も泣いたのを見たことがない。(それなのに)今日泣くのはどうしてか」と聞いた。伯俞は答えて「以前、私、伯俞が罪をおかしてしかられたとき、母上の笞は今までは痛かったです。(けれども)今日の母上の笞は私に痛いと思わせることができません。(それほど弱いことから考えますと、母上の体が弱られたのではないかと、悲しくなりました。)それですから、私は泣いているのです」と言った。

●練習問題3 ● 問一 ア 問二 さいわいに 問三 ウ 問四 エ

【考え方】 (全訳) 野中兼山は、土佐の国(現・高知県)の人である。

かつて江戸に来て、帰るといふとき、国の人に手紙を出し、「土佐にはどんな物でもある。江戸から土佐に持って帰るものは、船一そう分のはまぐりだけである。幸いにして無事航海を終えたら、早速さしあげよう」と言った。土佐の人は、その珍しい味を賞味しようと思ひ、船の着く日を指折り数えて待っていた。ところが兼山は、船が到着する

と、運んできたはまぐりを城下の海に投げこませて、一個たりとも残さなかった。国の人は不思議に思ってそのわけを聞いた。兼山は笑って、「このはまぐりは、ただみなさんにおくるだけではなく、みなさんの子供にも、満足するだけ食べさせたいのだ」と言った。そしてその後、はまぐりはたくさん繁殖し、ついに土佐の名産となった。土佐の国の人は、そのとき初めて、兼山の将来を見通しての考えに感服したのであった。

発問問題1

問一(例)あそんでいた。 問二ウ 問三こずえ 問四(例)蟻がおぼれそうになっている様子。 問五人(ある人) 問六ウ 問七

ウ 問八イ

考え方

〔全訳〕ある河のほとりに、蟻があそんでいた。急に河の水かさが増してきて、この蟻を引きずりこんで流れていった。蟻が浮いたり沈んだりしているところに、鳩が木の枝先からこれを見て、「気の毒なさまだ」と、木の枝先を少し食いちぎって河の中に落としたので、蟻はその枝に乗って岸にあがった。こうしているとところに、ある人が竿の先にとりもちをつけて、(蟻を助けた)鳩を捕らえようとした。蟻が心に思ったのは、「今、(助けてもらった)恩を返さなくては」と思い、その人の足にしっかりと食いついたので、その人はふるえあがって、竿を向こうに投げ捨ててしまった。竿を投げ捨てた人は、事のいきさつがわかっただろうか、いやわかりはしない。けれども、鳩はこのことをきとって、どこへともなく飛び去った。

発問問題2

問一小さき島なれば 問二エ 問三(例)鼠島の近くの海を通る船では、三味線をひいてはいけない。 問四イ 問五ウ

考え方

〔全訳〕肥後の国(現・熊本県)と天草の島との間の海に、小さな島がある。どうしたことなのか、この島にはむかしからおびた

だしい数の鼠が住んでいるという。もともと小さな島なので人も住むことなく、(住んでいるのは)ただ、鼠だけであるという。このため、この海を通る船では、三味線をひくことを船頭が固く禁止して許さない。もしこの辺でこの禁止事項を破って三味線をひけば、必ず波風がたいそう激しくなると、船が危険になることがある。三味線は猫の皮を張って作ったものなので、鼠が嫌い憎むためだという。近ごろの値段の安い三味線は、多くは犬の子の皮を張っているとき。そうすると、この島の鼠は、三味線には猫の皮を張るといって、昔からの事だけを知っているのだろうか。

ドリル⑳

- (1)背 (2)歯 (3)首 (4)手 (5)腹 (6)肩 (7)舌 (8)目

17

古文の読解(2)

(P 170 ~ 173)

練習問題1

問五エ

問一(例)行ったことがある 問二ア 問三ウ 問四イ

考え方

〔全訳〕友人四、五人ほどと、ある年、嵐山の桜の花見に出かけたことがある。今日がちょうど満開であろうと思われるところで、(実際に行ってみると)一方ではすでに散っている桜もあるが、渡月橋のこちらの川岸を、川に沿って上流の方へ歩いて行く。風がさつと吹き荒れると、まるで雪が降っているかと思われるほどに散り乱れる花が、となせの滝の岩にぶつかる波にすぐにまぎれて流されていくさまなど、言葉に言い表せないほど趣が深い。友人の一人の中野三郎という人が、川の中の大きな岩に腰をおろして、笛を高らかに吹き鳴らしたその音が、川の水音に調和して響いているのを、趣深く思っていると、たまたまそばに居あわせた法師が「春おもしろくきこゆるは」と、古歌の文句の一部を口ずさんでいたのが、この場にふさわしく興

(作文例)

す	や	こ	て		と	ラ	い	デ	味	
ま	デ	と	い	近	が	ム	外	ザ	す	ピ
す	パ	が	る	年	、	を	国	イン	る	ク
高	ー	で	と	、	す	見	の	に	こ	ト
ま	ト	可	聞	日	ぐ	て	人	な	ト	グ
っ	の	る	く	本	れ	そ	な	っ	が	ラ
て	よ	ピ	の	を	て	の	ど	て	理	ム
い	う	ク	で	訪	い	意	、	い	解	は
く	な	ト	、	れる	る	味	ど	る	で	、
と	公	グ	言	外	点	す	の	言	き	一
考	共	ラ	葉	国	だ	る	言	語	る	目
え	の	ム	に	人	と	も	語	の	よ	見
ら	場	の	頼	観	思	の	人	日	う	た
れ	所	必	ら	光	う	が	で	本	な	だ
る	を	要	ず	客	。	理	も	語	、	け
	中	性	情	が		解	ピ	を	シ	で
	心	は	報	増		で	ク	理	ン	そ
	に	、	を	加		き	ト	解	プ	れ
	ま	空	知	し		る	グ	で	ル	が
		港	る			こ		き	な	意

200字

100字

案内図記号(ピクトグラム)について、資料を参考にして自分が考えたことを書く作文である。

まず、第一段落で求められているピクトグラムのデザイン上の特徴については、【資料1】を参考にするととても単純な分かりやすい(理解しやすい)図であることが読み取れる。また、ピクトグラムのすぐれている点については、【資料2】で空港やデパートの案内に用いられている様子を参考にすると、一例として文字に頼らなくても意味がわかることに気づく。したがって、日本語が理解できない人(外国人など)にも意味を伝えることができる点などを書くことよい。

第二段落では、第一段落で書いたことにつながる形で、模範解答のように外国人観光客の増加に関連させるなど、ピクトグラムに関する自分の考えを書くことよい。「見聞したことや体験したことをふまえて」のように、書かれている条件は必ず守ること。

作文を書くときは「読まれる」ことを常に頭に置き、読み手の立場になって理解しやすいように論理的に書く。また、読み手が読みやすいように丁寧に書く。誤字・脱字、主語・述語の対応や係り受けなど、文法的な誤りのない表現をすることは、指示されていなくても守るべき最低の条件である。

〈作文採点基準〉

※10点から減点法。

①原稿用紙の使い方(1点減点)

- ・段落の書き出しを一字分あけていない。

- ・句読点を正しく使っていない。など

②表記(1点減点)

- ・誤字、脱字、送り仮名の間違い。など

③表現(1点減点)

- ・主語、述語がねじれている。

- ・わかりにくい表現。など

④段落構成や内容など、設定された条件を満たしていない。

(3点減点)

⑤字数制限

- ・字数が100字未満の場合は0点。

- ・字数が180〜220字に収まっていない場合は5点減点。